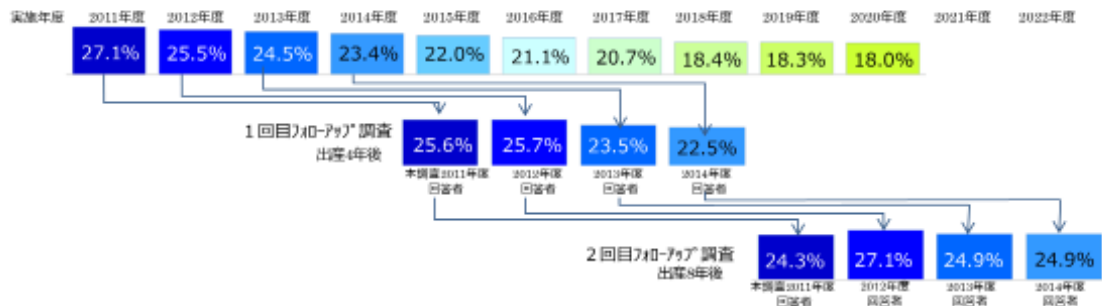


【妊産婦のうつ傾向の推移】

「気分が沈みがち」「物事に興味がわかない」という設問に、両方あるいはいずれかに当てはまると回答された方の割合

妊産婦さんのうつ傾向は徐々に減ってきていますが、震災後「1～2年以内」に出産した人はそれ以降に出産した人より、4年後もうつ傾向が高い状態でした。



【“次回の妊娠・出産をお考えですか？”の設問に「はい」と答えた方の推移】

全国調査		本調査									
2010年	2015年	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
51.0%	50.0%	52.9%	52.8%	57.1%	53.3%	54.6%	52.4%	52.2%	51.3%	50.0%	

全国調査2010:「平成22年第14回出生動向基本調査」結婚10年未満で子どもを予定している割合（既に子どもがいる場合）

全国調査2015:「平成27年第15回出生動向基本調査」結婚10年未満で子どもを予定している割合（既に子どもがいる場合）

※2011年度調査は 設問項目なし

第44・51回福島県「県民健康調査」検討委員会資料より作成

本調査では、気分が沈みがち、物事に興味がわかない、といった妊産婦の方のうつ傾向に関する設問について、その両方あるいはいずれかに当てはまると回答された方は経年的に減少しました。しかし、震災後1-2年以内に出産した人はそれ以降に出産した人より、4年後もうつ傾向が高い状態でした。

妊産婦のうつ傾向については、「健やか親子21（母子保健の国民運動計画）」によると、エジンバラ産後うつ指標を用いて評価した全国の「産後うつ」の割合は2013年度が8.4%、2017年度が9.8%、2021年度が9.7%でした。2020年度本調査の結果から算出されるエジンバラ産後うつ指標による産後うつの推定割合は10.0%でした（算出に用いた資料：Mishina H, et al. Pediatr Int. 2009; 51: 48.）。

2020年度調査では、次回の妊娠・出産を希望すると回答した方の割合は50.0%でした。2012年度調査以降、回答者の半分以上の方がこれからも妊娠・出産を希望しています。参考として、結婚10年未満の夫婦で子どもを予定している割合は、第14回（2010年）出生動向基本調査では、60%（既に子どもがいる場合に限ると51%）、第15回（2015年）出生動向基本調査では、57%（既に子どもがいる場合に限ると50%）でした。

本資料への収録日：2015年3月31日

改訂日：2025年3月31日